

令和4年度 スポーツ庁委託事業
障害者スポーツ推進プロジェクト
(コーディネーター配置事業)
委託事業成果報告書

令和5年3月
石川県

目 次

I 事業の概要	・・・	1
1. 事業実施の趣旨		
2. 事業の実施期間		
3. 事業内容		
(1) 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの 相談に対応するための窓口設置		
① 障害者スポーツ相談窓口の設置		
(2) モデル地区内における連携体制の構築		
① アンケート調査の実施		
② 障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催		
・ 小松市における取り組み		
・ 七尾市における取り組み		
③ 障害者スポーツ活動情報誌の作成		
4. 事業実施体制		
II 本事業の全体像	・・・	3
1. コーディネーターの業務対象となるモデル地域の範囲・基本情報		
2. 目標		
3. コーディネーターの配置		
III 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの 相談に対応するための窓口設置	・・・	4
1. 障害者スポーツ相談窓口の設置		
IV モデル地区内における連携体制の構築	・・・	7
1. アンケート調査の実施		
2. モデル地域における障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催		
3. 障害者スポーツ活動情報誌の作成		
V 成果及び課題、今後の方針	・・・	23

I 事業の概要

1. 事業実施の趣旨

本県の障害者スポーツの推進については、石川県障害者スポーツ協会や、石川県障がい者スポーツ指導者協議会と連携しながら、県障害者スポーツ大会の開催や、全国障害者スポーツ大会の選手団派遣、出場選手の強化練習会、障がい者スポーツ指導者協議会養成講習会などの施策を実施してきたところである。

平成28年度からは、行政・協会・指導者協議会をはじめ、総合型地域スポーツクラブ・県スポーツ協会など健常者のスポーツ関係者や障害者団体等からなる障害者スポーツ普及協議会を設置し、本県の障害者スポーツの普及に向け一体となって取り組んできたところであり、若い頃からスポーツに親しんでもらう取り組みや、学校卒業後もスポーツに取り組める環境づくりなどが求められている。

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」において、特別支援学校におけるスポーツ教室を継続的に開催し、若年期において運動習慣を定着させるとともに、県内各所に設置されている総合型地域スポーツクラブにおいて、障害のある方もない方も共に参加できる教室の開設支援や、障害者福祉施設におけるスポーツ教室開催、オンラインスポーツ教室の開催など、若年期から学校卒業後を見据えた一貫した取り組みを行い、障害のある方が身近な地域で生涯にわたってスポーツに取り組める環境の整備を図ることとしている。

本事業では、上記の取り組みと併せて、福祉・教育・競技団体等との連携を中核的に担うコーディネーターを配置し、関係団体との連携体制の構築を図るとともに、障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体等からの相談に対応するための窓口を開設することにより、障害のある方がどの地域でも、また、どのライフステージにおいても、スポーツに参加できる環境の整備を図る。

2. 事業の実施期間

令和4年7月15日から令和5年3月31日

3. 事業内容

(1) 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談に対応するための窓口設置

① 障害者スポーツ相談窓口の設置

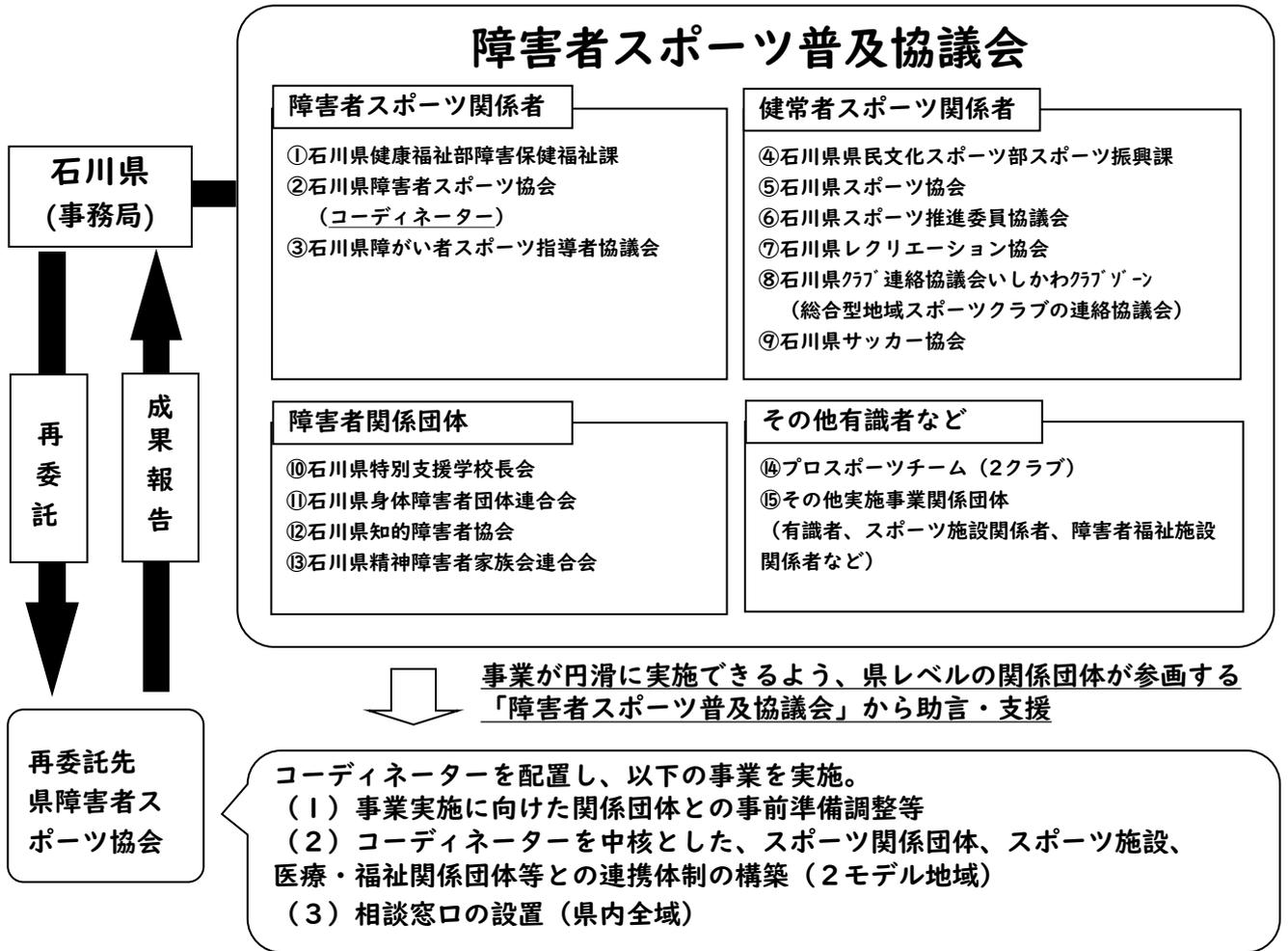
(2) モデル地区内における連携体制の構築

① アンケート調査の実施

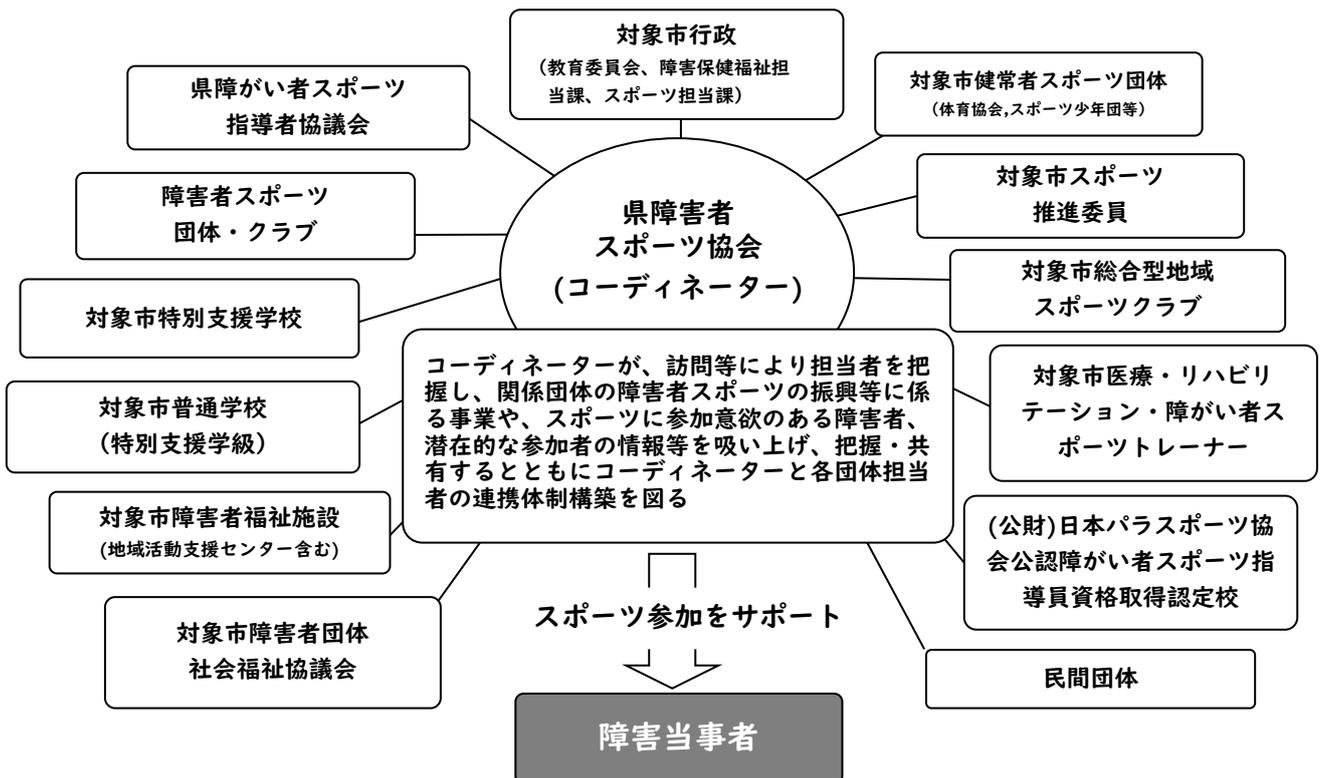
② 障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催

③ 障害者スポーツ活動情報誌の作成

4. 事業実施体制



<関係団体との連携体制のイメージ>



II 本事業の全体像

1. コーディネーターの業務対象となるモデル地域の範囲・基本情報

スポーツに意欲を持った障害者や、潜在的な参加者の掘り起こし、そしてその方々のスポーツ参加を支援するためには、福祉や教育、医療など住民と直接関わる機会が多い市・町レベルでの対応が必要であると考えられることから、コーディネーターを中核とした連携体制の構築については、障害者スポーツの実施環境に格差のある地域（2市）で集中的に行い、相談窓口については、県内全域を対象として対応を行う。

対象事業	連携体制の構築		窓口設置
対象地域	七尾市 (能登)	小松市 (加賀)	県全域 (19市町)
人口 (R4.2.1現在,石川県の人口と世帯)	49,012人	105,229人	1,122,263人
面積	318.29km ²	371.05km ²	4,186.05km ²
移動に係る 所要時間 ※金沢駅から同 地域中央地点へ の所要時間	約30分 ※約1時間30分	約20分 ※約1時間	約2時間30分 (金沢市から珠洲市)
スポーツ 実施状況	障害者スポーツ 大会参加者数 現状：1,107人 うち対象地域の参 加者52人	障害者スポーツ 大会参加者数 現状：1,107人 うち対象地域の参 加者56人	障害者スポーツ 大会参加者数 現状：1,107人

2. 目標

- ・対象地域において、コーディネーターを中核として、関係団体との連携体制を構築する
- ・県内全域を対象とした相談窓口を設置し、障害のある方が円滑にスポーツ活動を行えるよう、情報提供・サポート体制を整備する
- ・県内全域での障害者スポーツの振興を図るため、モデル地域の事例を他地域においても横展開させ、市町や関係団体等へ本事業で得られたノウハウや情報の提供を図る

3. コーディネーターの配置

コーディネーターの役割として、①障害者スポーツ分野、②教育分野、③医療・福祉分野、④健常者スポーツ分野など幅広い知識・経験を有する者を石川県障害者スポーツ協会にコーディネーターとして配置した。

Ⅲ 障害者本人や家族・支援者、スポーツ関係団体・スポーツ施設等からの相談に対応するための窓口設置

1. 障害者スポーツ相談窓口の設置

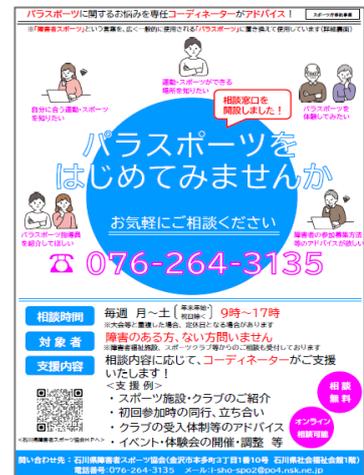
スポーツに意欲を持った障害者や、潜在的な参加者の掘り起こし、そしてその方々のスポーツ参加を支援するための相談窓口を新たに設置した。

(1) 相談窓口の概要

- ① 窓口の設置場所
石川県社会福祉会館（石川県障害者スポーツ協会内）
- ② 実施概要
開設曜日：月・火・水・木・金・土曜日
開設時間：9時～17時
- ③ 支援対象者
障害のある方、ない方問わない（県内全域）
※障害者本人、市町、施設、総合型地域スポーツクラブ等すべての方が対象
- ④ 支援内容
 - ・スポーツ施設・クラブのご紹介
 - ・スポーツ活動参加時の同行支援
 - ・クラブ受け入れ体制等のアドバイス
 - ・イベントや体験会の開催調整

(2) チラシの配布

- ① チラシ作成数 5,000部
- ② 配布先（830か所）
 - ・市町担当課
 - ・競技団体
 - ・総合型地域スポーツクラブ
 - ・障害者スポーツクラブ
 - ・特別支援学校
 - ・障害者関係団体
 - ・障害者福祉施設
 - ・プロスポーツチーム など



<チラシ>

(3) 相談実績

- ① 相談件数 62件
- ② 相談方法

	件数	割合
対面	46	74.2%
電話	16	25.8%
メール	0	0.0%
計	62	100.0%

③ 相談者属性

	件数	割合
本人・保護者	19	30.6%
総合型地域スポーツクラブ	3	4.8%
競技団体	6	9.7%
障害者福祉施設	7	11.3%
市町	0	0.0%
特別支援学校	4	6.5%
スポーツ協会	4	6.5%
その他	19	30.6%
計	62	100.0%

④ 主な相談内容

【本人・保護者】

- ・ 全国障害者スポーツ大会に向けての練習について、練習時間や頻度を増やしたいが、どうすればよいか
- ・ 学校卒業後の練習環境について、仕事と競技の両立したいが、どうすればよいか
- ・ パラスポーツに関心があるため、情報等が欲しい
- ・ 特別支援学校を今年度で卒業するが、今後は何かスポーツをさせたいと考えており、どの競技に向いているかや、どのような教室・クラブがあるのか教えてほしい
- ・ 障害者スポーツクラブに加入して約1年となるが、更なる競技力向上を目指すには、今後どうすればよいのか相談したい

【特別支援学校】

- ・ 中学校や高校の通常学級に在籍している障害がある生徒には、ほとんど障害者スポーツの情報が届いていないように思われるが、情報を届けるために具体的な手立てはないか教えてほしい

【障害者福祉施設】

- ・ デフスポーツの振興における課題を教えてほしい
- ・ 施設に入所する方から、継続的にボッチャに取り組みたいと要望されているが、毎回の職員のサポートは困難であるため、外部の指導者等を紹介してほしい
- ・ グループホーム内でパラスポーツのイベントや教室を開催したいが、どの程度まで支援・協力を得られるのか教えてほしい
- ・ 誰でも気軽に参加できるようなレクリエーションボッチャ大会を多く開催してほしい

【障害者スポーツクラブ】

- ・ 知的障害者向けにバスケットボールプログラムを実施しているが、どのように参加者数を増やしていけばよいか。
また、新たにサッカープログラムを実施したいが、アスリートやコーチを募集する術を教えてください。

【その他】

- ・ 小学校でも近年、授業や学校行事でボッチャを取り上げることが多くなってきているが、学校に指導員を派遣していただくには、どうすればよいのか（小学校教員）
- ・ 特別支援学級に在籍する生徒が不登校となっており、スポーツ等をきっかけに、復帰してほしいと思っているので、相談したい（中学校教員）
- ・ 車いすフェンシングの普及に取り組みたいが、今後どのように活動していけばよいのか相談したい（NPO法人）

IV モデル地区内における連携体制の構築

1. アンケート調査の実施

(1) アンケート調査の概要

今後の事業の方向性を整理するため、障害者スポーツの実施環境に関するアンケート調査を行い、各関係団体の障害者スポーツの取組状況や課題を把握した。

① 調査内容

- ・ 障害者スポーツ担当者の把握
- ・ 障害者スポーツ協会について
- ・ 障害者スポーツに関する相談先
- ・ 障害者スポーツ関係機関との連携体制
- ・ 障害者の参加促進策
- ・ 障害者スポーツイベントの開催状況
- ・ 障害者スポーツ普及に向けた課題

② 調査方法と回収結果

- ・ 調査対象
市町担当課、県・市町スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、特別支援学校、障害者関係団体、社会福祉協議会、障害者福祉施設、プロスポーツチーム
- ・ 調査手法
アンケート調査依頼文を郵送で送付し、アンケート用紙を石川県障害者スポーツ協会ホームページからダウンロード、ご記入のうえメールで回答いただいた。
- ・ 調査期間
令和4年8月17日～30日
- ・ 回収結果
発送数 189団体 回収数 104団体 回収率 55.6%

(内 訳)

市町担当課	20団体	(19.2%)
県・市町スポーツ協会	11団体	(10.6%)
競技団体	15団体	(14.4%)
総合型地域スポーツクラブ	8団体	(7.7%)
障害者スポーツクラブ	17団体	(16.3%)
特別支援学校	11団体	(10.6%)
障害者関係団体	4団体	(3.8%)
社会福祉協議会	3団体	(2.9%)
障害者福祉施設	13団体	(12.5%)
プロスポーツチーム	2団体	(1.9%)

③アンケート調査結果

【障害者スポーツ協会について】

問1. 石川県障害者スポーツ協会について、ご存じでしたか。

「知っていた」との回答が73.8%であったが、県・市町スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブでは、「知らなかった」との回答が50%以上であった。

障害者スポーツ協会の認知度

有無	n	103	%
知っていた	76		73.8
知らなかった	27		26.2
計	103		100.0

団体別集計	知っていた	知らなかった
市町担当課	15	5
県・市町スポーツ協会	5	6
競技団体	12	3
総合型地域スポーツクラブ	4	4
障害者スポーツクラブ	15	1
特別支援学校	9	2
障害者関係団体	4	0
社会福祉協議会	3	0
障害者福祉施設	7	6
プロスポーツチーム	2	0
計	76	27

【障害者スポーツに関する相談先】

問2. 障害者スポーツに関する相談があった場合、どちらの団体を紹介していますか。（複数回答可能）

相談先として「障害者スポーツ協会」が最多であった一方で、次点では「相談先なし」となっている。

相談先

団体名	n	104
障害者スポーツ協会	43	
市町担当課	30	
障害者関係団体	21	
社会福祉協議会	21	
市町体育協会	2	
総合型地域スポーツクラブ	11	
競技団体	13	
相談先なし	36	

【障害者スポーツ関係機関との連携体制】

問3. 障害者スポーツ関係機関との連携体制について、連携している団体に○をご記入ください。（複数回答可能）

「連携先なし」との回答が半数以上を超え、最多であった。

連携団体	
団体名	n 104
市町担当課	4
市町教育委員会	3
障害者関係団体	13
社会福祉協議会	10
特別支援学校・学級	11
障害者福祉施設	5
市町体育協会	2
総合型地域スポーツクラブ	4
障害者スポーツクラブ	5
スポーツ競技団体	4
連携先なし	61
その他	12

【障害者の参加促進】

問4. 障害のある方のスポーツ活動への参加を促進させるために、必要と思われる項目に○をご記入ください。（複数回答可能）

「障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催」が最多となり、続いて、「障害者スポーツの情報発信」、「指導員の確保・育成」となっている。

参加促進策	
項目	n 104
障害者へのアプローチ強化	35
障害者スポーツの情報発信	56
障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催	64
地域における関係団体の連携体制構築	40
指導員の確保・育成	53
施設の設備・バリアフリー化	42
障害者スポーツ用具の確保	39
障害者スポーツの実施機会（クラブ等）の提供	34
障害者の交通手段の確保	46
ボランティアスタッフの確保	32
その他	7

【イベントの実施状況】

問5. 障害者スポーツイベントを実施していますか。

「実施している」割合が50%を超えたものの、市町担当課、県・市町スポーツ協会、社会福祉協議会、障害者福祉施設では実施率が50%以下となっている。

イベントの実施

有無	n	103	%
実施している	58		56.3
実施していない	46		44.7
計	103		100.0

団体別集計	実施している	実施していない
市町担当課	7	13
県・市町スポーツ協会	1	10
競技団体	9	6
総合型地域スポーツクラブ	6	2
障害者スポーツクラブ	17	0
特別支援学校	7	4
障害者関係団体	3	1
社会福祉協議会	1	2
障害者福祉施設	5	8
プロスポーツチーム	2	0
計	58	46

【障害者スポーツ普及に向けた課題】

問6. 障害者スポーツ普及に向けて、貴団体が抱える課題について、ご記入ください。（自由記入）

【障害者関係団体】

- ・当初からの人手不足に加え、コロナ禍で施設職員は感染防止対策等で通常業務をこなすことで精一杯である（障害者関係団体）
- ・視覚に障害を持っている方は、移動手段の確保が困難である

【特別支援学校】

- ・学校卒業後の受け皿として、クラブチームも部活動の練習に参加しているが、卒業と同時に競技を辞める生徒が多い
- ・障害者スポーツはかなり認知されるようになったが、まだ「する」ではなく「みる」のイメージが強いのではないか

- ・生涯スポーツへとつなげるため、学校卒業後のスムーズな移行はどうかとよくなるのか
- ・障害の重い児童生徒が実施できる競技の開発
- ・多くの生徒が安心して参加したいと感じるようなスポーツ情報や、身近で気軽に参加できるようなスポーツのイベント等を通して、知識や経験を重ねることが必要
- ・施設、道具、情報の不足や各競技会参加時の練習時間の不足
- ・将来の社会生活を豊かにする上でも、障害者スポーツや文化的な取り組みについても経験できる機会を多く増やす必要がある
- ・生徒が少なく、また、運動能力に差があるため団体競技の実施が困難
- ・全国大会等の遠征にかかる費用の捻出

【障害者福祉施設】

- ・部活動等に参加したいが放課後デイサービスで送迎は出来ず、親の方でも対応できないことが多い
- ・コロナの影響で外部と接することができず、オンラインなどでできる競技があればよい
- ・障害者スポーツに関する情報はほとんどなく、参加する機会がなく、参加できても大きな大会であり、日常的に参加できるようなイベントがない
- ・不眠などの問題を抱えている人が多いため、ウォーキング、キャッチボールなど、気軽に毎日取り組める仲間、場があると助かる

【スポーツ協会】

- ・直接、障害をお持ちの方に接する機会が少ない
- ・障害者スポーツへの関心を高め、知識を学び、指導員を育成する必要がある
- ・障害者スポーツへの理解を深め、障害者スポーツに興味を持つ方がスポーツに取り組みやすい環境や支援ができる体制を整えることが必要

【総合型地域スポーツクラブ】

- ・特別支援学校との連携が必要
- ・競技大会に出場する場合の競技団体への登録手続きが煩雑であり、また、大会等の申込料も高額であるため、出場したくてもできない環境の方もいるのではないか

- ・教室の運営に際し、受益者負担を要求するためには低価格にせざるを得ないため、指導者に対するフィー、その他の経費を負担すると教室の継続は困難になってくる

【障害者スポーツクラブ】

- ・参加者が不足しており、体験に来ていただいても身体にあう車いすが少ない
- ・練習したいが、体育館の確保が困難である
- ・若い選手の確保、練習会や大会へ積極的に参加してほしい
- ・高度な技術を指導してくれる人材の確保
- ・体育館にはエアコンがないため、夏場の練習機会の確保
- ・指導者、サポーター等のボランティアの不足
- ・次世代アスリートの確保として、特別支援学級へのクラブの周知ができていない
- ・大会だけではなく、イベントや交流会などを開催してほしい

【競技団体】

- ・競技者が高齢化となり競技から離れていった方が多数おり、今後はスポーツ教室の開催や特別支援学校での部活動をきっかけに競技人口が増えればよい
- ・健常者の障害に対する理解、受け入れ体制が課題である
- ・現状では課題を考えるという状況ではなく、まずは県内で競技を認知してもらう必要がある
- ・特別支援学校や障害者福祉施設等から競技の指導依頼があるが、指導員数が伸び悩んでいることや指導員の高齢化により依頼に十分に応えられていない
- ・冬季期間は場所がないために練習を休まざるを得ないため、冬季でも体力を維持できるように運動できる場所が欲しい

【プロスポーツチーム】

- ・障害者が参加できるチームをがあるが、参加者が少なく、広報手段やアプローチ方法の改善が必要
- ・競技上の特性上、体育館の使用が認められない場合がある

④ 事業の方向性

アンケート結果を踏まえ、

- ・ 現状では関係機関の連携は希薄であること（問3）
- ・ 障害のある方のスポーツ活動への参加を促進させるためには、障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催が有効（問4）

といったアンケート結果に着目し、

モデル地区内において、複数の関係団体が共同で障害者スポーツイベント・体験会・教室を開催することで、関係団体間でつながりを持っていたくとともに、障害者スポーツの楽しさを知ってもらい、その後においても、コーディネーターが中心となって、次の開催等に向けてフォローすることで、継続的な取り組みにつなげ、関係団体間の連携体制をより一層強化を図ることとした。

(2) 障害者スポーツイベント・教室・体験会の開催

① 小松市における取り組み

イベント名	石川県パラスポーツフォーラム
場所	石川県西部緑地公園陸上競技場
種目名	ゆるスポーツ
連携先団体	ツエーゲン金沢（サッカー・J2） 小松ゆるスポーツ協議会 中能登町 星稜大学学生
対象者	ツエーゲン金沢公式戦来場者
実施日/参加者	10月2日（91人）
経緯	プロスポーツチームと連携した、公式戦当日における障害者スポーツイベントの開催に向けて、コーディネーターが中心となって、各関係団体との調整を図り、ゆるスポーツ体験会を共同で運営した。
実施結果	小松ゆるスポーツ協議会からは、「これまでは協議会内でゆるスポーツの体験会等を実施してきたが、今回、学生と共同で体験会を運営したことで、今後は学生にもノウハウを伝え、学生たちからも、ゆるスポーツをPRしてほしいと思った」といったご感想をいただいた。 イベント開催後には、他のイベントにおいて、学生がゆるスポーツ体験会を運営しており、今回のイベントを通じて、関係団体の連携を構築することができた。
取組写真	 

イベント名	ボッチャ教室
場所	小松特別支援学校
種目名	ボッチャ
連携先団体	小松特別支援学校 石川県ボッチャ協会
対象者	小松特別支援学校 生徒
実施日/参加者	11月30日 (40人)
経緯	新型コロナウイルス感染防止対策の影響で学校行事が相次いで中止となっており、生徒が楽しめるイベントとして、ボッチャを実施したいとの希望があったため、県ボッチャ協会からの指導員派遣の調整を図った。
実施結果	県ボッチャ協会から2名の指導員が派遣され、生徒たちはルールの説明を受けた後、ボールの投げ方を練習し、最終的には試合形式でボッチャを楽しむことができた。 また、教員の方も専門的な指導を受け、「今後の生徒への技術指導に活かしたい」といったご感想をいただいた。 今後も、体育の授業や部活動の中でボッチャを実施する際には、県ボッチャ協会の指導員を派遣いただく予定となっている。
取組写真	

イベント名	パラカヌー体験会
場所	小松特別支援学校
種目名	パラカヌー
連携先団体	小松特別支援学校 石川県カヌー協会
対象者	小松特別支援学校 生徒
実施日/参加者	12月22日 (27人)
経緯	学内の障害者スポーツの取組状況を聞きとりしていたところ、当校では平成16年頃から部活動の加入生徒を対象にカヌーに取り組み、実際にカヌー競技場（小松市・木場潟）でも活動してきたところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が途切れてしまい、現在では在校生にカヌーの経験者はいない状況となっていた。 来夏のカヌー活動再開に向けて、コーディネーターが中心となって、学校、県カヌー協会と体験会の開催に向けて調整し、県カヌー協会から指導員を派遣いただいた。

<p>実施結果</p>	<p>当日は、石川県カヌー協会の岩崎氏（2022日本パラカヌー選手権大会KLI優勝）をお招きし、パラカヌーの魅力を発信する講演会を開催したほか、パドルの操作練習やカヌーへの乗艇体験を実施した。</p> <p>生徒たちからは、「次は実際に水の上でも漕いでみたい」といったご感想をいただき、また、学校としても、来夏のカヌーの再開に向けて前向きであることから、今後は関係団体と協議の上、具体的な内容や日程について調整を図る。</p>
<p>取組写真</p>	

<p>イベント名</p>	<p>陸上競技体験会</p>
<p>場所</p>	<p>小松特別支援学校、末広陸上競技場</p>
<p>種目名</p>	<p>陸上競技</p>
<p>連携先団体</p>	<p>小松特別支援学校 小松市スポーツ協会 小松市陸上競技協会</p>
<p>対象者</p>	<p>体験会申込者</p>
<p>実施日/参加者</p>	<p>1月21日（ 1人） 2月18日（ 2人） 3月11日（ 4人）</p>
<p>経緯</p>	<p>小松特別支援学校に在籍する生徒は陸上の大会に参加するなど、熱心に取り組む生徒が在籍しているが、地元には参加できるクラブがないため、卒業後の競技継続が課題であった。今回、コーディネーターが中心となり、関係機関にもご協力をいただきながら、授業がない土曜日に3回体験会を開催した。</p>
<p>実施結果</p>	<p>初日は1名の参加であったが、小松特別支援学校の生徒や卒業生を中心に、回を追うごとに参加者を増やすことができた。</p> <p>4月からは5名の参加希望があり、今後も関係機関と連携しながら、教室として継続していく方針となっている。</p>
<p>取組写真</p>	

イベント名	クロスカントリースキー教室
場所	小松特別支援学校
種目名	クロスカントリースキー
連携先団体	小松特別支援学校 石川県スキー連盟
対象者	小松特別支援学校 生徒、教員
実施日/参加者	1月31日 (15人) 2月7日 (15人)
経緯	小松特別支援学校の障害者スポーツの取組状況を聞きとりしていたところ、本校ではスキー用具を保有しており、毎年冬には体育の授業において学校運動場でクロスカントリースキーを実施していたところであったが、専門的に指導できる人材がいなかった。 コーディネーターが中心となって、県スキー連盟と調整を図り、指導員を派遣いただくことで、生徒に対して専門的な指導が可能となった。
実施結果	当日は快晴であったため雪解けが心配されたが、指導員の方々からも「是非生徒たちを指導したいので、授業前にコースを整備しておきたい」と言っていただくなど多大なご協力をいただき、教室を開催することができた。 生徒たちからは「自分が上達しているのがわかり、楽しい」といったご感想をいただくなど、満足いただける内容となった。 次年度においても、県スキー連盟から指導員を派遣いただく予定となっている。
取組写真	

イベント名	ボッチャ教室
場所	小松瀬領特別支援学校
種目名	ボッチャ
連携先団体	小松特別支援学校 石川県ボッチャ協会 田中恵子選手（東京パラリンピックボッチャ銀メダリスト）
対象者	小松瀬領特別支援学校 生徒
実施日/参加者	2月28日 (30人)
経緯	地元出身で東京パラリンピックボッチャ銀メダリストの田中恵子選手をお招きして、ボッチャの体験会を実施したいといった要望があったため、コーディネーターを中心に各関係団体との調整を図り、体験会を開催した。

<p>実施結果</p>	<p>当日は、田中恵子選手及び母孝子様にはボッチャの取り組み内容等についてご講演いただいたほか、田中選手と一緒にボッチャ体験会を開催した。</p> <p>参加した教員からは、「生徒たちは田中選手の技を見て刺激を受け、ボッチャ体験も非常に楽しんでいた」といったご感想をいただき、満足いただける内容となった。</p> <p>今後もパラリンピアン等をお招きして、ボッチャ体験会等が継続的に開催できるよう、コーディネーターが中心となって、支援していく方針である。</p>
<p>取組写真</p>	

② 七尾市における取り組み

<p>イベント名</p>	<p>ボッチャ体験会</p>
<p>場所</p>	<p>矢田郷地区コミュニティセンター</p>
<p>種目名</p>	<p>ボッチャ</p>
<p>連携先団体</p>	<p>七尾市社会福祉協議会 石川県ボッチャ協会</p>
<p>対象者</p>	<p>小松特別支援学校 生徒、教員</p>
<p>実施日/参加者</p>	<p>10月20日 (23人)</p>
<p>経緯</p>	<p>七尾市社会福祉協議会主催により、卓球バレー及びスカットボール大会が開催されることをお聞きし、準備運動の時間を頂戴し、ボッチャ体験会を開催した。</p>
<p>実施結果</p>	<p>当日は準備運動として、ボッチャのボールを的に向かって投げさせていただくことで、ボッチャを体験していただいた。</p> <p>わずかな時間ではあったが、ボッチャの魅力をPRできたので、このような機会を通じて、今後の体験会の開催につなげていきたい。</p>
<p>取組写真</p>	

イベント名	ウォーキングフットボール教室
場所	七尾特別支援学校
種目名	ウォーキングフットボール
連携先団体	七尾特別支援学校 公益財団法人日本サッカー協会 一般社団法人石川県サッカー協会 ツエーゲン金沢
対象者	七尾特別支援学校 生徒、教員
実施日/参加者	12月12日 (27人)
経緯	<p>七尾特別支援学校の障害者スポーツの取組状況を聞きとりしていたところ、「運動が得意な生徒、そうでない生徒もいるが、生徒全員が楽しめるかたちでサッカー教室を開催したい」といった要望があった。</p> <p>石川県サッカー協会にご相談したところ、ウォーキングフットボールをご紹介いただき、また、日本サッカー協会からも指導員を派遣いただけると助言をいただいた。</p> <p>日本サッカー協会からも指導員派遣をご快諾いただき、ウォーキングフットボール体験会を開催することができた。</p>
実施結果	<p>当日は、プロサッカーチームのツエーゲン金沢から選手2名にもご参加いただき、ウォーキングフットボール体験会を開催した。</p> <p>生徒たちは、プロサッカー選手と一緒に体験することで初めは緊張していたが、徐々に慣れていき、最終的には参加者全員がウォーキングフットボールを楽しむことができた。</p> <p>参加した教員からは、「運動能力に関係なく生徒全員が楽しむことができた」、「生徒たちはプロサッカー選手とスポーツを通じて交流でき、良い機会となった」といったご感想をいただくなど、満足いただける内容となった。</p> <p>今後も、サッカー教室等を通じて、プロスポーツチームや県サッカー協会等と交流できる機会を設けることで、連携体制の強化を図っていきたい。</p>
取組写真	

イベント名	バスケットボール教室
場所	七尾特別支援学校
種目名	バスケットボール
連携先団体	七尾特別支援学校 金沢武士団
対象者	七尾特別支援学校 生徒、教員
実施日/参加者	12月20日 (49人) ドリブル・シュート練習等
経緯	スペシャルオリンピックス日本・石川が七尾市で実施する知的障害者を対象としたバスケットボール教室の開催に先立ち、近隣の七尾特別支援学校において、プロバスケットボールチーム金沢武士団の選手を招いて、体育の授業においてバスケットボール教室を開催した。
実施結果	生徒たちは、プロバスケットボール選手から、ドリブルやパス、シュートについての指導を受け、最終的には選手と試合を行い、バスケットを楽しむことができた。 参加した生徒からは「選手にたくさん教えてもらって、バスケットで体を動かす楽しさを知った」といった感想をいただいたほか、教員からも「生徒のスポーツへの関心を高める貴重な機会となった」といったご感想をいただくなど、満足いただける内容となった。 この機会を通じて、生徒にバスケットボールについて関心を持ってもらうことができ、2月から新たに開催するバスケットボール教室つなげることができた。
取組写真	

イベント名	オンラインダンス教室
場所	七尾特別支援学校
種目名	ダンス
連携先団体	七尾特別支援学校本校 生徒 七尾特別支援学校輪島分校 生徒 七尾特別支援学校珠洲分校 生徒 石川県レクリエーション協会
対象者	七尾特別支援学校本校・輪島分校・珠洲分校 生徒、教員
実施日/参加者	1月16日 (15人) 1月23日 (27人) 2月13日 (42人)

<p>経緯</p>	<p>七尾特別支援学校の障害者スポーツの取組状況を聞きとりしていたところ、デジタル技術を活用したスポーツ体験は行ったことがないとのことから、輪島分校、珠洲分校も含めて、朝の体力づくりの時間を活用して、オンラインダンス教室を実施することとなった。 オンライン指導には、県レクリエーション協会から講師を派遣いただき、開催することとなった。</p>
<p>実施結果</p>	<p>講師が準備したダンス動画を朝の体力づくりの時間を活用して1か月程度練習いただいた。 初日や中間日には、講師によるオンライン指導を行ったほか、最終日には講師と3校をオンラインでつなぎ、成果発表会を行った。 参加した教員からは、「約1か月の練習を経て、自然と体が動く生徒が多くなったと感じている」といったご感想をいただき、満足でいただける内容となった。 今回の取り組みにより、オンラインにおけるスポーツ教室を体験いただくことができ、次年度以降も同様の取り組みが実施できるよう支援していきたい。</p>
<p>取組写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">クロスハンドステップ</p>

<p>イベント名</p>	<p>バスケットボール教室</p>
<p>種目名</p>	<p>バスケットボール</p>
<p>連携先団体</p>	<p>スペシャルオリンピックス日本・石川 金沢武士団</p>
<p>対象者</p>	<p>教室申込者</p>
<p>実施日/参加者</p>	<p>1月17日 (6人) 2月8日 (6人) 2月22日 (7人)</p>
<p>経緯</p>	<p>スペシャルオリンピックス日本・石川では、プロバスケットボールチーム金沢武士団と連携して、従来から、金沢市において知的障害者向けバスケットボール教室を開催してきたところであるが、金沢武士団の練習拠点が七尾市へ移動したことから、コーディネーターが中心となって、能登地区でも教室を開催できないか、関係機関へ打診し、教室の開催に至った。</p>
<p>実施結果</p>	<p>能登地区で初めての開催であったが、12月に七尾特別支援学校で実施したバスケットボール教室に参加した生徒が本教室にも参加したほか、金沢市で開催する教室の参加者も加わり、盛り上がりを見せた。 次年度以降も開催する方針であることから、更なる参加者の確保に向けて、周知を図っていく。</p>

取組写真	
------	--

イベント名	パラスポーツ体験会
場所	アルプラザ鹿島
種目名	ボッチャ、カローリング、バグジー
連携先団体	七尾市 七尾市社会福祉協議会 中能登町 中能登町社会福祉協議会 石川県障がい者スポーツ指導者協議会 NASPO 国際医療福祉専門学校七尾校
対象者	買い物客等
実施日/参加者	2月4日（151人）
<p>経緯</p> <p>実施結果</p>	<p>商業施設において、パラスポーツ体験会を開催することで、関係機関の方々に共同で運営を体験いただくとともに、パラスポーツの魅力を知ってもらうことを目的として、コーディネーターが中心となって、イベントを企画した。</p> <p>当日は、障がい者スポーツ指導者協議会の指導員を中心に指導を行い、市町職員や学生等は指導補助として体験会を運営していただいた。</p> <p>事前に、近隣の障害者福祉施設や特別支援学校等にチラシを配付していたこともあり、多くの障害者福祉施設から団体で参加いただいたほか、買い物客からも多く参加いただき、大盛況となった。</p> <p>体験会に参加した方からは、「パラスポーツに親しみが持てた」、「今回限りで終わらず、来年も是非開催してほしい」といったご感想をいただき、満足いただける内容となった。</p> <p>また、運営いただいた関係機関の方々からも、「参加者全員が楽しんでいる姿を見て、パラスポーツの魅力を感じることができた」といったご感想をいただき、今後は関係機関が中心となって、イベントや体験会が開催できるよう支援していきたい。</p>
取組写真	

(3) 障害者スポーツ活動情報誌の作成

相談業務等において、障害者スポーツクラブや教室を円滑に紹介できるよう、アンケート調査で把握した、障害者スポーツクラブや障害者関係団体等が実施するクラブ・教室等の情報を集約し、冊子を作成した。

① 掲載内容

- ・クラブ、教室名
- ・担当者連絡先
- ・参加対象者
- ・活動日時、場所
- ・ホームページ
- ・メッセージ

② 掲載クラブ・教室数 35クラブ・教室

③ 配付先

特別支援学校、障害者福祉施設
障害者スポーツイベント参加者 等



<冊子>

V 取り組み結果、今後の方向性

<取り組み結果>

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限のある中での実施となったが、

障害者スポーツ相談窓口の設置では、合計62件の相談対応を行うことができた。

相談内容としては、

- ・障害者スポーツの情報取得方法に関するもの
- ・学校卒業後のスポーツの取り組みに関するもの
- ・競技力の向上に関するもの
- ・障害者スポーツの更なる普及策に関するもの
- ・外部指導者の派遣依頼に関するもの
- ・障害者スポーツイベントの協力依頼に関するもの

など、様々な相談が寄せられ、コーディネーターが適切にアドバイスを行うことで、障害者本人のクラブへの参加等に繋げることができた。

モデル地区内における連携体制の構築については、各関係機関の障害者スポーツの取組状況を把握するため、まずはアンケート調査を実施した。

アンケート結果からは、様々な課題等を把握することができたが、本事業においては、

- ・現状では各関係機関の連携が希薄であること
- ・障害をお持ちの方の参加を促進させるためには、障害者スポーツイベント・体験会・教室の開催が有効

といったアンケート結果に着目し、複数の関係団体が共同で障害者スポーツイベント・体験会・教室を開催することで、関係団体間でつながりを持ってもらうこととした。

特別支援学校、障害者スポーツ団体、競技団体、障害者関係団体、学生、プロスポーツチーム等を巻き込んで、多種多様な体験会等を開催することができた。

今回の開催が決定しているものや、調整中であるものも多くあり、今後も継続的に開催することで、関係団体の連携体制を構築、より一層の強化に向けて、引き続き支援していきたい。

また、アンケート調査で把握した障害者スポーツクラブや障害者関係団体等が実施するクラブ・教室の情報を集約し、冊子を作成した。障害者スポーツ協会のホームページに掲載するほか、特別支援学校や障害者福祉施設に配付することで、当冊子をきっかけに、障害のある方に、生涯にわたって実施できるスポーツを見つけていただき、運動習慣の定着につなげていきたい。

<今後の方向性>

次年度も、障害者スポーツ協会で引き続き、相談対応を行う予定であるが、障害者本人からの相談が想定より少なかったため、アプローチ手段を検討して行く必要がある。

また、体験会等の開催を引き続き行うことで、関係団体でつながりを持ってもらい、継続的な開催に向けて支援していく予定である。今年度の反省として、新型コロナウイルス感染症の影響で外部との交流機会が減少している障害者福祉施設においては、対面での体験会等の開催が困難であったため、今後は、要望に応じてオンラインを活用した体験会を開催していきたい。

こうした取り組みを行うことで、県内の障害者スポーツの振興体制の強化や、障害のある方が、生涯にわたって身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備を図っていきたい。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、石川県が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（コーディネーター配置事業）」の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。